
憂「お誕生日!」

マッシュユ2号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

憂「お誕生日！」

【Nコード】

N1172R

【作者名】

マッシュユ2号

【あらすじ】

本日2月22日を記念した短編SSです。毎年のお誕生日会をお姉ちゃんや仲間と過ごしてきた憂ちゃん。16歳の誕生日にとっておきのプレゼントをしようと唯ちゃんや周りの仲間が奮闘しようと思いますが…？

（前書き）

会話形式です。苦手な方はご注意ください

——平沢憂12歳の誕生日

唯「ハッピーバースデートゥーユー♪ハッピーバースデートゥーユー♪
ハッピーバースデーアウーイー、ハッピーバースデートゥーユー♪」

憂「ふう！」

唯「憂ー誕生日おめでとぅー！はいこれプレゼントー！」

憂「うわー、お姉ちゃんありがとうー！！なにかなー……何？」

唯「名刺入れー！憂ももうすぐ中学生になるんだから、名刺ぐらい
作るかなーっと思ってー！」

憂「あ、ありがとう……（小物入れにしようっとなー）」

唯「お父さんお母さんも帰ってこれれば良かったのにねー」

憂「しょうがないよ、お仕事忙しいもの」

唯「もー、あんまりお父さん油断していると憂なんかすぐお嫁さ
ん行っちゃうよう、ね！」

憂「お、お嫁さんって私はまだまだそんなの早いよー」

唯「そう？あ、それより早くケーキ食べよケーキー！」

憂「うん、そうしょー！（お姉ちゃんもまだまだ花より団子だよ
ねッ）」

唯「あーおなかいっぱーい」

憂「あーお姉ちゃん、こたつで寝たら風邪ひいちゃうよ……」

唯「うーいー……」

憂「うん？なあにお姉ちゃん？」

唯「来年は家族一緒に憂の誕生日祝おうねー……zzz」

憂「お姉ちゃん……寝言？」

唯「寝言だよーzzz」

憂「返事した！……お姉ちゃん器用だなー」

—— だけど、その次の年も、その次の年も家族がそろってお誕生会をすることはなかった。

—— 次の年は、唯のクラスメイト達が一緒に祝ってくれた。

—— その次の年は、憂のクラスメイトが祝ってくれた。

—— さらに次の年は、唯と憂の両方のクラスメイトが祝ってくれた。

—— だけど、

—— 家族がそろうことは、なかった。

そして今日は2月21日。

平沢憂16歳のお誕生日の前日。

唯「というわけでして……！」

律「なーにが、というわけだよ、さっぱりわからん」

唯「あれ！？今のモノローグでみんなわかってくれたと思ったのに……」

漣「唯、メタな視点でも言うのはやめような……私達、まだ何も聞いてないから」

紬「……もしかして、明日の憂ちゃんのお誕生日のこと？」

唯「そーなんですよお、ムギさん！」

律「どんなキャラだよ……憂ちゃんの誕生日、明日も去年みたくみんなでお祝いするんだろ？」

梓「（あ、突っ込み損ねた）」

唯「うーん、そうなんだけどお、今年こそ、お父さんお母さんに帰

つてきてもらいたいんだよ。りっちゃんなんかならない？」

律「私にふるんかい！？んー、そうだなあ、じゃあこっいうんはど
うだ……ゴニョゴニョ」

唯「おお、りっちゃん隊員天才！！」

律「へへへん、だろっ？」

漣「どんな作戦だよ？」

律「いやだからさ。ゴニョゴニョ」

漣「はあ！？そんなの普通にばれるにきまつてる！それに憂ちゃん
に悪いよ」

梓「なんですか？」

漣「はあ……さわちゃんと堀込先生に頼んで、唯と憂ちゃんのパ
：お父さんお母さんのふりをしてもらうんだって」

梓「それは……ちよつと」

律「いや。だつてサプライズで帰ってくるんだぜ？ほんのちよつと
顔を見せるくらいならばれないって！なんなら声だけでも」

漣「いゝや無理だ。それに逆に憂ちゃんが寂しくなるだけだぞ」

律「どうしてさ」

漣「憂ちゃんの気持ちになつてみるよ、そんなだましてまで家族に
きてもらいたいとは思つてないだろうし、そんなことで先生方に迷
惑をかけるのも憂ちゃんは望んでないぞ」

律「ちえゝいい考えだと思つたのにさ」

唯「ありがと。りっちゃん、憂のためにそこまで考えてくれただけ
でもうれしいよ！」

律「まー結局机上の空論で終わつちまつたけどなー」

紬「……とりあえず、お茶にしましょうか？」

唯「うん、するする！！」

漣「もうその話はいいのか……」

梓「唯先輩、憂、何を送ったら喜んでくれるでしょうか？」

唯「うゝん、前には名刺入れ送ったことあるよ」

梓「め、名刺入れ？」

唯「うん、すつごく喜んでいたよ」

梓「（さすがにそれは…自分で考えよう）」

- - - - -

唯「それじゃみんなまいったね」

紬「お疲れさま」

漣「じゃあ、また明日」

律「おっつかれー！」

梓「みなさん、お疲れ様ですー！」

漣「あれ？律、何で学校の方に戻るんだ？」

律「へっへっちょーっと忘れもの思い出しちゃってさー先帰ってて

！ー！」

漣「？…まあ、いいけど、それじゃ、気をつけて帰れよ」

律「そんじゃーねえー！！みつおちゅわーん」

漣「妙な呼び方をするなー！！」

梓「（とりあえず、アクセサリーとかいいかな？ブティック行かな
きゃ…）」

紬「もしもし、あ、斉藤？ちょっと頼まれてほしいことがあるんだ
けど」

紬「うん、うん、そうね、その方向でお願いするわ。お願いね」

——その夜、平沢邸

憂「もしもし、あ、お母さん？え？明日？うん、しょうがないよ……うん、気にしないで。お仕事だもんね。大丈夫、お姉ちゃんもいるし……うん、それじゃ」

唯「憂……やっぱりお父さんお母さん、今年もこれないの？」

憂「うん、今年も忙しくて家に帰れそうもないって」

唯「憂……」

憂「ッ……そんな顔しないで、お姉ちゃん？あたしなら大丈夫！さ、明日は何つくろっかなー」

唯「う、うん……」

——よくじつ！

律「あーずさ！」

梓「律先輩？どうしたんですか？」

律「いやー実はさ、頼みごとがあるんだけど、ゴニョゴニョ」

梓「って、律先輩！またそんなこと……昨日濤先輩に」

律「頼む！このとーりー！」

純「梓ー、どうしたの？ってあれ？軽音部の先輩の……えっと、」

梓「あ、純。えっと……」

律「律だ！田井中律！よろしく！！そうだ、純ちゃんも手伝ってくれー！！」

純「え、何をですか？」

純「なるほどー、そーいうサプライズなら憂も喜ぶかもしれませんね。……いいですよ！私も手伝います！！」

梓「ちょ、ちよっと純……」

純「いいじゃん、梓。憂の家つてめったに両親帰ってこないんでしょ？ だったらそういうことで憂を喜ばせてあげようって田井中先輩や、梓の気持ちは絶対憂に伝わるよ」

律「ほらほら純ちゃんいいこと言った！ な、梓！」

梓「うーん、そう言われると納得しちゃうような……というか私数に入っているんですか？」

律「頼むよー、漣には昨日の反応の手前言い出しづらいしさー」

梓「はあ……わかりました、協力します。憂が喜ぶかどうかはわかりませんけど」

律「だーいじょう部だって！ あたしに任せておけって」

梓「（余計心配に……）」

—— 夕方 平沢家

唯「憂ーただいまーみんな来てくれたよー」

憂「あ、お姉ちゃんお帰りー！ みなさん……！！」

律「ういーっす憂ちゃん……！！」

漣「お誕生日おめでとう憂ちゃん」

紬「おめでとう！」

梓「憂ー、お、おめでとう！」

純「あたしもいるよー！」

和「憂、16歳おめでとう」

憂「……！ ありがとうございます、みなさん！ さ、どうぞ」

憂「今、お料理の準備するんでちよっと待っててくださいね」

漣「あ、憂ちゃん、今日はみんなでオードブルとケーキ買って来たんだ」

憂「え……？」

紬「今日は主役なんだから、ゆつくりしていいのよ、憂ちゃん」

梓「大体何でそのあたり、唯先輩がしきらないんですか！」

唯「うう…あずにゃんが反抗期！」

梓「違います！」

純「ほら、憂。座って座って」

憂「え、でも……」

律「いーからいーから。たまには私達に任せておきなって」

和「憂、お誕生日なんだからみんなに甘えたっていいのよ」

憂「みなさん……ありがとございます……！」

律「おーし、じゃあムギと澪は盛り付けお願い！！和と唯はテーブルの飾り付け頼むぜ！私と梓は足りないものの買い出し行ってくるぜ……！」

梓「あ、純もこっちお願い」

純「あいよー」

澪「頼むぞ、律。憂ちゃん、御台所借りるね」

憂「あ、はい！」

和「それじゃ唯、こっちも始めましょうか」

唯「ラジャー……！」

- - - - -
- - - - -
- - - - -

和「はやいものね、この間まで小学生だと思っていた憂がもう私達と同じ高校生なんて」

憂「真鍋先輩……」

和「ふふつ、なあにそんなにかしこまっているの。昔みたいに和ちやんでいいわよ」

憂「え、いいんですか？…和ちゃん」

和「なあに？」

憂「その……いつもお姉ちゃんを助けてもらって、」

和「そんなのいつものことじゃない。私はいつもあなたたちの味方よ。これからも、ずっと」

憂「和ちゃん……!!」

唯「和ちゃん、これどうやってくつつけるの?」

和「え?あ、これはこういうふうに、…」

憂「(本当に、ありがとう!和ちゃん……)」

律「た、大変だ!!唯、憂ちゃん!!外に、唯たちのお父さんが!」

唯「ええ!?!」

和「そんな…確か、これないはずなんじゃ…」

漣「律、昨日みたいなたくらみしているなら、やめろって言った」

梓「ホントです漣先輩!!私も見ました!!」

漣「あ、梓まで…それじゃ…ほんとに?」

純「わ、私も私も!!ほら憂、早く早く!!」

憂「え?え?」

唯「わ、ど、どうしよう私まだ何にもしてないよー」

憂「(ホントに……本当にお父さんたちが帰ってきてくれた!?)」

- - - - -
- - - - -
- - - - -

憂「(どこ…お父さん、お母さん!?)」

パンパン

憂「えっ…?」

さわ子「おめでとぅ、憂ちゃん!!」

聡「おめでとぅー!!……って姉ちゃん、なんで俺呼ばれたの?」

純「ほら、憂、あずさ2号も祝ってくれているぞ」

あずさ2号「にゃー」

憂「山中先生、聡君！？純ちゃん、律先輩！？いったいどういう」
律「いやーほんととはさーさわちゃんに憂のお母さんの変装でもさせ
ようと思ってたんだけど、梓に固辞されちゃってさーそれでとりあ
えずサプライズゲストってことで呼んだんだけど…」

憂「わ、私のために……みなさん……」

純「憂さー、唯先輩のお世話ばかりで、甘える相手いないじゃん？ たまにはそういうのも必要だっ……て……ちょ、憂……泣いているの？」

憂「……純ちゃん、ありがとう。純ちゃんとお友達になれて私ほん
とによかった……!!」

さわ子「あらあら、みせつけてくれちゃうわね」

「もしもし、企画したの私なんですけど……ってまあいつか」

唯「どったのー？憂……ってさわちゃん！？聡君までー」

聡「あ、どうも……」

「おお！？ 聡、どうしたんだよ」

聡「いや、姉ちゃんに呼ばれたもので」

「なるほど……律、結局やったんだな。」

律「失敬な！純然たるゲストとして呼んだだけでい！」

[illegible]

唯「ということで、準備が整いました!!」

律「唯、今回もあんまり何もしてないだろ」

唯「失敬な！！このテーブル周りの花飾りを」

律「お、手作りか？すごいなーこれ」

唯「貼り付けました！」

律「貼り付けただけかよ！私のすごいを返せ！！」

和「まあまあ……ちゃんと唯もいろいろやっていたわよ？」

唯「ほらほら！」

和「まあ唯なりに、だけど」

唯「和ちゃん冷たいー」

さわ子「それじゃそろそろみんな、乾杯しましょう？」

梓「その前に」

一同「??？」

梓「特別ゲストがいらっしやいます」

律「なーに言っただよ、梓。まだクラスメイトとか来るっての？」

梓「お二人どうぞー！」

平沢父「いやーどうも皆さん、憂の誕生日をこんな大人数で祝福していただけるなんて…あ、どうも憂の父です！」

平沢母「みなさんどうも、娘たちがお世話になっております憂、お誕生日おめでとう」

憂「え」

一同「ええ〜〜〜〜〜〜！！！！????」

- - - - -
- - - - -
- - - - -

憂「そ、そんなどうして！？だって昨日電話で」

平沢父「いやーそうなんだけどね。あの電話の後急に通りすがりの助っ人さんが来てくれてねえ…仕事は任せていいから娘さんのお誕生日会に行つてあげなさいって」

平沢母「しかも、すごく親切な人たちでね、ここまで来るためにチャーター機まで用意してくれたのよ」

漣「梓、いったいどうして…お二人と？」

梓「いえ、さつき律先輩たちが純ちゃんの家に行つたときに、ちょうど会いまして…乾杯の前に呼んでくれと」

憂「お父さん、お母さん……」

平沢父「憂、いつも心配と苦労ばかりかけてすまないな。でも、憂がこんな立派に育ってくれたからお父さんたち安心して出かけられるんだよ」

平沢母「ほんとにごめんなさい、せめて記念日には一緒にいられるようにしているけど…お誕生日ももうずいぶん帰ってこられなくて…でも、いいお友達や先輩さんを持ったのね。お母さんとっても嬉しい」

憂「お父さん、お母さん…!!」

平沢母「あらあら、ホント憂は昔から泣き虫さんねえ。せつかくのお誕生日なんだからもつと笑わなきゃ」

憂「ご、ごめん…な…ッ…!!」

梓「憂…良かったね」

純「憂ー甘えんぼさんだなー」

さわ子「こーらちゃかさないの」

和「おじさん、おばさんお久しぶりです」

唯「あ、ねえねえお父さんお母さん！会うの初めてだよね、軽音部のみんな!!」

- - - - -
- - - - -
- - - - -

漣「……なあ律」

律「ん？なあんだ漣」

漣「その通りすがりの助っ人ってやつぱり……」

律「んー奇遇だね。私も今同じこと考えていた」

紬「なにに、なんのお話？」

律「いやー今日の漣のパンツの色について」

漣「つていきなり何言いだすんだ！」

漣律「（琴吹家恐るべし!!）」

- - - - -

唯「それじゃあ、みなさん、グラスはお持ちにおなりましたでしょうか!？」

律「唯」敬語がおかしいぞ」

唯「えゝそう?ま、細かいことは気にせず、さ、憂、ケーキの前ケーキの前」

憂「うん、お姉ちゃん!」

唯「それでは皆さんと一緒に!」

一同「ハッピーバースデートゥーユー」ハッピーバースデートゥーユー
ハッピーバースデーアウーイー、ハッピーバースデートゥーユー

」

憂「ふう!」

一同「憂ちゃん、誕生日おめでとう!!!」

——平沢憂16歳の誕生日

——最高のプレゼントと、最高の仲間と、最高の先輩と、最高の姉を持った少女の

——あなたとわたしと

——YOU&I

——U&I

——UI

— H A P P Y
B I R T H
D A Y
お
し
ま
い

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1172r/>

憂「お誕生日!」

2011年2月22日21時09分発行